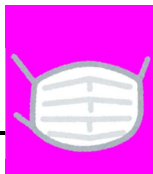


2020年12月1日

江戸取図書館便り 12月1号



江戸東京博物館紹介

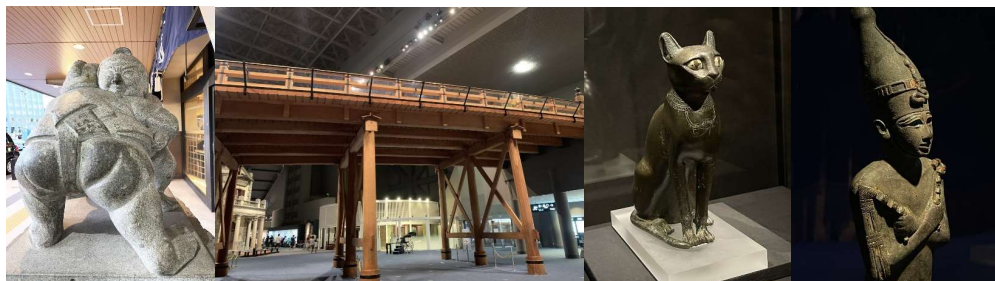


*「古代エジプト展」(特別展)4月4日まで

*「大雪」(12月7日)の候日に日に寒さがつります

・オンライン予約は不要です。並んで見られます。<特別展> 中・高生 1,440円 一般 1,800円、
<特別展・常設展共通券> 中・高生 1,530円 一般 2,000円です。ぜひ常設展もご覧ください。

*「江戸東京博物館(略して、「江戸博」)は、「常設展は、徳川家康が江戸に入府してから約400年間を中心に、江戸東京の歴史と文化を実物資料や復元模型等を用いて紹介しています」(HP)。両国と言えば、国技館(写真は、駅前にあるお尻テカテカの彫刻「力相撲」)と江戸博(写真は、半分を再現した「お江戸日本橋」)です。*特別展の名称は、「国立ベルリン・エジプト博物館所蔵 古代エジプト展 天地創造の神話」です。「ベルリン国立博物館群は、ロンドン・大英博物館、パリ・ルーヴル美術館などと並ぶ、ヨーロッパ最大級の規模と質の高さを誇る総合博物館として知られ、なかでも、エジプト部門は、アマルナ時代の優品を筆頭に数千年にわたるエジプト史を網羅する世界有数のエジプト・コレクションを誇ります」(HP)。*写真は、人気の「猫(パステル女神座像)」と「イリス像(アテフ冠を被ったオシリス神の小像)」です。*この特別展は、写真撮影ができます。(司書)



*絵本新着本紹介 <ショーン・タン特集>



*SHAUN TAN 1974年オーストラリア生まれ、メルボルン在住。ポローニャ国際絵本原画展の最高賞であるラガッツイ賞を2007年『アライバル』で受賞。『アライバル』は、絵のみでことばはありません。2011年『ロストシング』(岸本佐知子訳)でラガッツイ賞を再度受賞。同年『ロストシング』を自らアニメーション化し、アカデミー賞(短編アニメーション部門)を受賞。ほかに岸本佐知子訳で『遠い町から来た話』『夏のルール』『セミ』や『エリック』などがあります。『ショーン・タンの世界』の中の「ショーン・タンのまなざし」(6頁)に岸本佐知子さんが、書かれています。「(ショーン・タンの世界は)暗くてあたたかい。怖いのに可愛い。繊細で壮大。絵それ自体から放たれる言葉が、心に直接かたりかけてくれるようでした。・・・ショーン・タンは、ページのはしっこで遊ぶ人です。・・・物語を読み終わって本を閉じた後、また何度でも本を開いて新しい発見ができる。それが、ショーン・タン作品の魅力の一つです」。



羽田美智子さんの本が入りました

